令和７年２月

保護者　殿

令和６年度　学校評価結果について(報告)

福井小学校

１　はじめに

昨年度の本報告に次のように記されている。

・保護者は，一層児童に寄り添い，児童の内面に届く教育実践を求めている。
・ザ・FUKUI サーキットは，体を動かすことから児童相互の関わり合いづくりにと期待している。
・学校生活において，人間関係に不安や不満を感じる児童がいる。生徒指導面からも，日々の児童の姿に注視し，日頃の予防的な指導，問題発生時の対応，さらには事後指導に取り組む。
・今後も目標や手立てを，さらには成長の事実を共有することで，児童育成への学校・家庭・地域の連携を進めていく。そこでは，何よりもまず児童の力を伸ばすことに全力を尽くすことが保護者の学校理解を深め，信頼感を高めていくと考える。
・今回の学校評価を通して明らかになった本校教育改善へのキーポイントは次のとおりである。

・児童の成長する姿（変容）を届けることを通して，信頼関係を構築していく。
・児童の変容を，自他を認め合う授業における学習活動で引き出す。
・授業改善に一層取り組み，授業45分の中身を高めていく。

これらを踏まえて取り組んできた本年度の教育実践について評価を行った。

（１）アンケート調査について

○　方　法　調査は web でのオンライン回答方式（学校運営協議会委員は文書調査）
○　期　間　令和6年11月下旬～12月中旬
○　回答数　児童（51/52）,保護者（33/35）,教職員（14/14）,学校運営協議会委員（9/9）

（２）アンケートの分析方法

・本年度学校教育目標（【資料１】）の達成度の視点から各評価を考察する。
・児童・保護者・教職員の三者の視点から学校教育目標の達成度を評価する。
・これまでの児童評価，保護者評価，教職員評価にある項目を「学校教育目標達成に向けた評価項目三者一覧表」（【資料２】）にまとめて整理し，目標達成の状況や改善点を明らかにする。
・各質問項目に対し，「そう思う」「やや思う」を**肯定的意見**，「あまり思わない」「思わない」を**否定的意見**としてとらえる。
・「そう思う」「やや思う」の**肯定的意見の合計が80%以上**の場合，達成度が**『高い』**とする。
「あまり思わない」「思わない」の**否定的意見の合計が20%以上**の場合，達成度が**『低い』**とする。

２　アンケート結果

アンケートの結果は，それぞれ「学校評価集計（三者比較）【資料３】」「学校運営協議会委員評価【資料４】」にまとめた。別紙にして紹介する。

３　結果と考察

保護者回答が9割を超えた。多忙な中での協力に感謝したい。今年度は，三者一覧表に基づき，児童･保護者･教職員が，目標達成に向けてどのように関係していたかの視点で分析した。

（１）　学校教育目標の達成（児童の成長）について

①　三者共に達成度が高いと判断している項目

観点	質問No.	調査内容
自主	質問１	授業はよくわかる，学力が身に付いている。
	質問３	話をよく聞き，言うべきことが言える。意見交換ができる。
創造	質問８	学校生活は楽しい。登校を楽しみにしている。楽しく工夫している。
	質問９	早寝早起き朝ごはんなど，規則正しく生活している。
	質問12	自分は活躍することがあった，自信を高めている，個に応じて工夫した。
	質問13	相談できる先生や友達がいる，学校のことを話している，公平に接している。
	質問14	先生がほめてくれる，家庭でほめている，がんばりを認め伝えている。
感謝	質問16	きまりを守っている，ルール･マナーを守ることを大切にしている，道徳の授業を柱にしている。
	質問18	学年をこえて仲良くしている，『いじめをしてはいけない』と教えている，自分も他人も大切にする人権教育に取り組んでいる。
	質問21	住んでいる町が好き，地元の行事にできるだけ参加する，郷土愛を育む。

②　児童と保護者が達成度が低いと判断している項目

観点	質問No.	調査内容
自主	質問５	宿題にていねいに取り組んでいる，声かけをしている。
	質問６	家庭で自主勉強をする，自主勉強への取組を励ます。
	質問７	本や新聞を読む，読書への声かけや環境作りを行う。
創造	質問10	歩いて通学する，可能な範囲で徒歩通学させている。
感謝	質問20	ノーメディアデーなどを決めて行っている，依存予防に努めている。

③　達成度のズレが大きい項目

－ア　児童が保護者より肯定的に判断している項目

観点	質問No.	調査内容	
自主	質問２	タブレットを使うと授業がわかりやすい，家庭学習に活用する。	[差－25]
創造	質問11	運動するのが楽しい，運動習慣が身に付いている。	[差－21]
感謝	質問15	あいさつ･返事･ありがとうが言えている，気持ちのよい挨拶や場に応じた言葉遣いをしている。	[差－29]
	質問17	当番や係の仕事，掃除をきちんとする，家庭で何か家事を任せている。	[差－23]
	質問19	緊急時の行動を知っている，防災に関する話をしている。	[差－24]
	質問22	夢や目標がある，子どもは夢や目標をもって生活している。	[差－42]

－イ　保護者と教職員のズレが大きい項目

[2]タブレット活用の効果　[6]自主勉強の意義　[7]読書の効果や意義　[11]体力づくりの意義
[15]挨拶･言葉遣いの指導　[17]集団の一人としての自覚と実践力の育成
[19]防災･危機管理力の育成 [20]ゲーム･スマホ依存の予防　[22]夢

④　考察

子に教育を受けさせるのは国民の義務であるように，公立学校の教育活動は，全ての子どもが学ぶ内容が設定されている。学齢に達した子どもは小学校に入学し，発達段階に応じた学習に取り組み，力をつけ，社会に出て行く。このことが理解され，共感されているから学校は成立する。

①において，三者共に到達度が高かった項目は，どれも，学校教育がよりよい効果を発揮するための必須条件であり，この生活の中で，本校児童は成長している。特に，質問18「いじめはしてはいけない」と諭され，質問14よさやがんばりが認められ，ほめられ，育っているのである。

集団での学校生活は，個人の得手不得手，好き嫌い，やりたいやりたくないへの対応は難しい。反面，難しいからこそ努力し，力を伸ばしていく。

②の，児童と保護者が達成度が低いと判断している項目は，この学校教育の周辺部にあって，家庭や地域とその価値を共有してこそ伸ばすことができる。また，③ーアにおいて保護者のとらえが厳しいのは，親としての期待や願いがあってのものである。児童にとって学校と家庭は同じではない。ただ，学校という公的な場で発揮する児童の力や可能性に目を向けていただきたい。これは，③ーイの保護者と教職員のズレともなって現れているが，このズレを小さくしていくことも学校教育の課題であると考える。教育効果が児童の変容を通してじんわりと広がるように。

今回，９割を超える児童・保護者からの『学校が楽しい』の声は，関係する全ての人の子どもを育てる努力のたまものであると受け止め，これからも楽しさが実感できる学校づくりを進めたい。

（２）　学校の取組について

質問23～30において，保護者･教職員ともに到達度が高いと判断している。学校の取組を共感的に受け止め，個と集団を共に伸ばしていこうとする学校の機能を活用して，子育てに臨まれている。

しかし，質問29のＰＴＡ活動の在り方については，36％が否定的意見である。近年の，児童数減少による学校の小規模化はＰＴＡ組織の小規模化でもある。令和5・6年度の2年間は，小さな組織でも持続可能なＰＴＡ活動について，役員を中心に見直しを検討し，会員に提案してきた。今後も，誰かがではなく，全員で取り組まなければならないＰＴＡ活動について協議を進めていきたい。

なお，各質問には10％前後の否定的な意見があることを忘れず，児童一人ひとりが育つ教育活動に取り組みたい。

（３）　保護者の入力式での意見について

①　学校からの情報発信に関すること

・　今後もシン山びこ（学校だより），学年だより，ホームページで行事や授業の様子をていねいに発信することが大切だと考える。
・　大事なことほど児童にわかりやすく，くり返し伝える（指導する）ことが必要であるとの課題意識を高めていく。
・　「子供達に全身全霊で向き合って欲しい」との意見をいただいた。誰一人として，決して慢心などしていないが，これを大いなる期待の声（激励）と受け止め，これまで同様，これからも信念をもって，教育公務員の任を果たしたい。

②　学校行事に関すること

・　教職員がその行事の意義を理解・共有し，児童が成長できる機会としていくことが肝要ある。その年，その時，その児童にすべき活動を検討し，最大限の教育効果が得られるように工夫することが求められている。

③　授業や学校の取り組みに関すること

・　児童の生命尊重を第一に考え，安全・安心のもとで教育活動を進めていくことが重要である。そして，児童一人ひとりの学ぶ意欲を育て，学ぶ権利を保障していかなければいけない。

・　基礎・基本の定着や好ましい生活リズムの定着に関しては，保護者との連絡や情報共有を密にして進めていくことが大切である。

・　ノーメディアデーなど，家庭教育に関しては，よりよい啓発と実践支援を進めていく。

④　服装に関すること

・　本校は制服（正確には「標準服」）を採用している。夏場は，暑さ対応として着用しないこと，冬場は，制服を着ても寒い場合に防寒着を着用すること，で体温調整（体調維持）に対応している。防寒着での登下校がありきではない。しかし，制服のサイズが小さくなるなどの諸事情への対応については，家庭の判断に委ねざるをえない。学級等での理解を図るために，その旨を担任に報告いただきたい。個別対応の一部（都合のいいところだけ）が伝わることによる，学級運営，ひいては学校運営への不信感拡大防止のためである。

　校則は，特に服装については家庭で購入するものであるし，学校全体のことであるので，学校だけでなくＰＴＡとも協議し運用している。この２年間では，

（ア）春秋期の体温調節のため，半袖体操服の下に長袖アンダーシャツを着用できないか。

（イ）女子の通学帽子が２種類ある，また，キャップは認められないのか。

　同時に，標準服・体操服は，クツのように，自由化してはどうか。　　等である。

（ア）は，無地の黒・紺まで着用可とする。

（イ）は，通学帽子は安全確保の黄色が重要で，形は本人が選択する。

　なお，標準服・体操服の自由化は却下。　　と協議し，運用している。

　さらに，標準服については令和６年度入学説明会（ちょうど１年前）以来，

（ウ）標準服について性別に基づく区別はしない。　　としている。

４　第3回学校運営協議会(R7.2.5)から

・　「挑戦」は，年間を通してよくできていた。

・　三者評価では，三者ともに達成度が高い項目と，ばらつきの大きい項目がある。ここに改善へのヒントがあると考える。評価項目の一層の磨きあげを期待する。７割が肯定なら上出来。

・　児童のどのような面を高めていくか，学校-家庭-地域で情報共有し，長い目で取り組んでいく。

・　ありがとう参観では，一人ひとりによく目が届く授業で大変よかった。保護者の雰囲気もよかった。少人数での学校生活は，学習にはいい環境だが，競い合えない難しさもあると感じた。

・　少人数であることを強みにすると共に，切磋琢磨する機会創出を大切にした学校運営とする。

５　おわりに

　今回の評価において児童・保護者がその達成度を低いと判断した項目，宿題，自主勉強，読書，徒歩通学，ノーメディア，さらには，保護者と教職員のズレが大きい項目，タブレット，挨拶，防災，夢，などは学校教育の評価として必要なものなのだろうか。これら全てを，教師でなくてもやれると切り離せば，働き方改革は一気に進むであろう。しかし，児童の育ちをまるごととらえることは，長欠・不就学の解決から始まった同和・人権教育の財産そのものであり，これらの指導・支援なくして教育効果の充実は望めない。だからこそ，家庭・地域と連携を高め，それぞれの得手，担うべきところを出し合いながら進めていかねばならない。なお，各質問項目の現状への学校教育における改善策は，【資料３】の各集計の下に記した。今後の参考としていく所存である。